るもい香涛祭り

小野敏雄さん

私にとって「るもい呑涛まつり」は夏を感じる一大イベントです。

留萌特有の立て上げ式大あんどんを最初に製作したスタッフの1人で、それからこの祭りにかかわってきました。

留萌の夏を彩る風物詩として定着した祭りで、留萌商工港まつりから発展したお祭りです。

留萌市民はもちろん管内や地方からの観客数も多いと聞いていますので、さらに楽しんでもらえる祭りにしていきたいと思っています。また、このお祭りを継続していくためには市民の積極的な参加と、官・民相互の協力が必要です。予算的にも人数的にも非常に厳しいので、一緒にやってくれる人達に広く参加を呼びかけたいと思っています。

お祭りは食べたり、飲んだり、見たり、参加したりといろいろな楽しみ方がありますが、この呑涛まつりはその全てを市民の皆様に体験してもらえるような祭りであればいいと思います。

千人踊り、やん衆あんどん、花火大会のそれぞれのイベントを1つのイベントとして人の交流をはかり活性化することも大事なことだと考えています。

千人踊りのリニューアル化、やん衆あんどんを2日制として千人踊りとドッキング化するとか、留萌独特の〝はねと〟をさらに規模を拡大するなど、いろいろなアイデアが企画委員会の中で検討されています。祭りを創る熱意、参加する熱意、見る熱意が激しくぶつかっていい祭りになっていきます。そんな熱意を伝染病のように伝えていくのが我々の使命の1つだと思います。留萌には他にもいろいろな祭りやイベントが開催されていますが、それぞれがいろいろな問題を抱えながら頑張っています。

継続していく難しさは、やっている本人達しかわからない部分もあるので、その点を多くの市民の人達に理解してもらい、協力を得ながらこれからも是非継続していってほしいと思います。

祭りが終わった後の参加者やスタッフの充実した笑顔を見れば、疲れたことなどどこかへ吹っとんでしまいます。祭りは誰かがどこかで動かなければ成り立たない。また、**みんなの協力無しでは絶対に成功はしない。**多少の批判や苦情があっても祭りは続けていきたい。今までも、そしてこれからも自らを叱咤しながら頑張っていきたい。もうすぐ始まる「るもい呑涛まつり」を楽しみにして下さい。そして皆さんの応援を待っています。

やん衆あんどん

永年親しまれてきた「留萌商工港祭り」をさらに盛り上げようと、留萌特有の大型立て上げ式の大あんどん7基を中心に、中小のあんどん約20基が華麗な演出を繰り広げている。
これは、平成2年に初めて披露され、市民はもとより観光客の楽しみの一つに加わった。
「雷夜（ライヤ）ー」の掛け声と太鼓の音とともに、高さ7メートルの大あんどんが、観衆を魅了する。

るもい川まつり

土田悦也さん

留萌川は一級河川の中では規模が小さく、流域構成も留萌市のみである。その留萌にとって、歴史的に交通手段として、町並みの形成の大きな要素として、また港湾事業にとっても、その存在は大きなものでした。

私たちは現在、整備され親しめる川となった「留萌川」を、身近なものとするためにも、楽しいイベントが必要ではないかと考えました。

本来、土着の祭り（収穫祭など）とイベントとしての祭りを分けて考えなければならず、ここでいう「町興し」のイベントとしての祭りは時流相応の短期的なもので、投資効果を顧みなければならないものだと思います。

「川まつり」は、集客力としては、大きくないですが、再来度、再参加が多く、「祭りは単純明解、判り易い」手法が受け入れやすいと思います。

川まつりは留萌の町興しにつながっていると思いますし、川まつりを継続するためには官民の協調が必要と思います。

「留萌川」は、過去「やっかいもの」であったが、方法によっては「親水性」が見出せると思います。

留萌で開催されている祭りについて、私個人としては、土着性、風土の反映が必要であり、規模の優劣ではなく、コンパクトで良いから、感動できるものが望ましいと思っています。

留萌川まつりは、平成二年に街づくりグループ「２００１年委員会」のメンバーと、留萌青年会議所の会員によってはじめられました。

高砂公園の北側の河川敷を会場に開催するこのまつりは、ユニークな企画が受けて、早くも留萌市民や観光客の人々に浸透し、夏のイベントとして定着しました。

この祭りで最も人気のある「落武者の川わたり」は、発砲スチロール板をロープでつないで、川幅約50メートルの川面に敷き、その上を武者姿の選手が走って渡ります。

次々と川に転落する選手や一気に渡ってしまう選手を見る観衆からは、爆笑や大きな拍手が送られます。

遠くは沖縄県や大阪の人が、観光旅行中に参加する人も増えています。

落武者

黒澤映画の作品に「影武者」があります。
留萌川を紙で作った鎧と兜を身にまとい、川面に敷かれた発砲スチロールの板の上を渡りきる、タイムトライアルレース。
向こう岸までに早くたどり着こうと賢明に走るが、多くの選手が川に落ちるため「落武者」と命名された。